

1	P21	(3) 教師海外研修	<p>教師海外研修スケジュールイメージの8月中旬の内容ですが、事後研修が第1,2回がそれぞれ2回ずつ設定されていますが、どのような実施内容になるのでしょうか？</p> <p>また、2020年の沖縄の役割を具体的に教えていただきたい。（事前・事後研修は九州とあるが、研修引率や報告書作成、報告会の実施など）</p>	<p>事前、事後研修第1,2回は、1回ずつとなります。</p> <p>最終的には、授業での実践を踏まえ、汎用性の高い（途上国にいったことがない教員でも取り組める）授業案を作成することが目的となります。</p> <p>その実現のために必要とされる研修について提言くださるようお願いします。</p>
2	P20	(2) ア) 過去の成果・教訓・・・	<p>文章が途中で切れていますので再掲載をお願いします</p>	<p>ア) 過去の成果・教訓や参加経験者の意見を踏まえ、沖縄県立総合教育センター、地区教育事務所・委員会、学校などの依頼者と打合せ/コンサルテーションを行い（必要に応じて発注者も同席）、依頼者に申請書（発注者HP掲載）を記入してもらい、状況や顕在的/潜在的ニーズ（依頼者の大卒の計画・目標、事前学習状況、依頼プログラムの達成目標、事後フォローアップ状況等）を踏まえ、プログラムの概要（日時、場所、達成目標、次第、講師、資料、機材、備品、事後アンケート、当日の進め方・役割分担等）を企画し、原則開催の1か月前までに発注者にプログラム概要・実施について確認をとる。</p> <p>※依頼者のニーズは、「世界の環境問題」など特定されている場合は、環境のワークショップ実施、環境分野の青年海外協力隊経験者の派遣等、内容に関わるため、依頼の背景・活用計画や希望の講師種別や内容などを十分に聴取する。</p> <p>※事後アンケートは、できるだけ実施当日に記入・回収するよう手配する。また依頼者には実施報告書（発注者HP掲載）を記入してもらう。事後アンケートは、依頼者の様式を使用しても良いが、発注者が指定する項目を含むこととし、必要があれば受注者が別に作成する（アンケートを分析し依頼者が発注者指定の実施報告書を記入するとともに、受注者・発注者が達成度や実施・運営の質をその他の研修と比較分析するため）。</p> <p>※事業の費用対効果を高めるため、依頼者には、年間での指導の目標や計画の明確化、事前・事後学習の実施などを奨励する。</p> <p>※外部から依頼されるプログラムは、自助努力や持続性にも鑑み、出来る限り、謝金・交通費の依頼者側負担や参加効果を妨げない範囲でのワークショップ等の補助を交渉する（今年度負担が難しい場合は次年度の確保を依頼する。但し次年度の継続利用を妨げないよう留意する）。依頼者・受講者の交通費等は支給しない。</p> <p>※外部から依頼されるプログラムは、将来的には依頼元がワークショップの講師を行ったり県内外国人・国際交流団体を招へいする等、自身で企画・実施・運営できるようにすることを目標とするため、依頼元担当者にも実施・運営方法を出来る限り体験を通して主体的に理解・学習してもらえよう努める。依頼元が自身でプログラムを実施できるようになることにより次年度継続利用を希望しなくなることは本事業の成果の一つと言える。</p> <p>※実施件数目安を超える見込みがある場合は教師海外研修や出前講座の活用など開発教育に意欲のある学校を優先する。</p> <p>※その他、「5. 全体留意事項」参照</p>
3	P25	(3) 教師海外研修結果・授業実践報告書及び授業案/教材/副読本	<p>九州参加者、沖縄参加者の合同で作成でしょうか？</p> <p>その場合のとりまとめは、2019年度は沖縄、2020年度は九州という認識でよろしいでしょうか？</p>	<p>2019年度は、JICA沖縄が沖縄、九州参加者全員分をひとつの報告書にとりまとめます。2020年度についてはJICA九州が同様に全員の分をとりとめることとなります。</p>